

# 小学生新聞

毎日小学生新聞編集部  
郵便 〒100-8051 (住所不要)  
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321  
メール maishou@mainichi.co.jp



今日の紙面



遠藤保仁選手  
8面

3面に  
6さいからの  
ニュース

日本語どんぶらこ 4面

「えんがちょ」って

てつがくカフェ 5面

どこからが言い訳?



保護者にお知らせ  
「毎小メール」

登録は▲こちら

## 強い口調のNHK放送

1か月前の能登半島地震



能登半島地震の発生から1か月前がたちました。被災地からの報道が続いていますが、地震が起きた元日には、NHKテレビで津波からの避難を強い口調で呼びかける放送があったのを覚えている人もいるかもしれません。これは突然生まれたものではありません。東日本大震災の教訓が生かされています。

### 「命助けたい」思いで

NHKによると、このよう  
な呼びかけは東日本大震災  
がきっかけでした。ニュース  
7のキャスター、瀧川剛史ア  
ナウンサーは当時を振り返  
り、「避難を呼びかけても(現  
地の人に)なかなか届かず、  
みんなつらい思いをしまし  
た」と話します。

そこで震災直後から、全  
国のアナウンサーが意見を  
出し合い、2011年秋に、現  
在につながる呼びかけの原形  
を作りました。大きな課題と  
して出たのが、「自分は夫  
丈夫だろう」と災害時に多  
くの人が思う「正常性バイ  
アス」です。当時は「安全な  
高台に逃げてください」「海  
に近づかないでください」な  
どの言葉を繰り返してはいま  
したが、強いトーンではなく、  
冷静な呼びかけでした。

局面の変化伝える  
今回の対応について瀧川さ  
んは「断定調は大津波警報  
が出た際に発する文言で、  
局面的変化を感じていただ  
くためのもの。普段冷静沈  
着なアナウンサーが、見た

こともないような表情や声  
色で伝えていること自体が、  
ニュース性を理解いたたくき  
っかけになると思う」と説明  
しました。

この呼びかけが実行された  
のは初めてでした。NHKに  
は「危機感を持た」「避難  
するきっかけになったとい  
う声が寄せられた一方、「も  
う少し落ち着いた声で呼びか  
けるべきではないか」といっ  
た意見もあったそうです。報  
道アナウンサーグループ統括  
の徳永圭一アナウンサーは  
「怖い思いをした方もいるで  
しょうが、命が助かってほ  
しいという思いを優先してい  
ることを知ってほしい」と理  
解を求めています。

ただ、呼びかけを強めた  
だけで、効果が出るわけでは  
ありません。NHKニュースセ  
ンターでは定期的に訓練をし  
ています。

カメラマン、記者、ニュー  
スの制作に携わる編集など  
と共同で、本番さながらの  
状況を再現。大津波警報の  
想定であれば、今回のように  
大きな声を出す練習もして  
きたといいます。今後、能登  
半島地震の対応についても検  
証するそうです。

【諸隈美紗希】

▲東京・渋谷のNHK放送センター内の訓練の様子  
2021年(NHK提供)